

第 6 章 参考資料

資料① 事例入力フォーム

資料② 事例入力例

資料③ 強みの種類

資料④ あなたの強みの種類

資料⑤ 活動・参加促進レシピ

資料⑥ カテゴリ分類一覧

資料① 事例入力フォーム（新）

No.	タイトル	対象者の強みを活用して活動・参加につながった事例	
事例	年齢： 性別： 介護度：	経過	発症から訪問リハ開始までの経過は・・・
	疾患名：		
	生活歴：		
	本人家族の希望：		
開始時の状態と活動・参加		実現したい生活目標（予後予測の元）	アプローチ後の活動・参加
訪問リハ開始時の状態としては・・・		意欲の出る具体的な生活目標は・・・	アプローチした結果、心身機能・活動・参加がどのように変化したか？・・・
例)写真		リハアプローチ内容	
		生活目標を実現する心身機能・活動・参加のバランスの取れたアプローチ・・・ 医療者視点と対象者の自己実現の視点をバランスよく・・・	
強み評価		例)写真	
リハ目標やプロセスに活かせる強みは・・・			
まとめ	この事例の総括と、うまくいったポイント、うまくいかなかったポイントを振り返って要約してください。全体を通して、うまく活動・参加につなげるためのコツを解説してください。		
	分類		

注意事項

- * 文字は 16 ポイント
- * 「No」：記載しない
- * 「タイトル」：長くならないよう要約し短文で表す
- * 「事例」：各項目をもらさず記載。生活歴は同居家族・職業・趣味など本人の背景がわかるもの
- * 「経過」：発症から訪問リハ開始までを記載する。病歴が長い・疾患がはっきりしない場合は、アプローチに関わる主たる疾患を記載
- * 「開始時の状態と活動・参加」：機能面だけでなく、生活能力や開始時の活動・参加について記載。
- * 「強み評価」：目標を達成させるために利用する要素
- * 「実現したい生活目標」：本人家族と共に向かっていける内容
- * 「リハアプローチ内容」：機能訓練に終始せず、目標を達成させるために解決しなければならない課題に対する具体的対応等を記載
- * 「アプローチ後の活動・参加」：目標に向かってアプローチをしてきた結果、現在どのくらいまで到達できたのかを記載。
- * 「まとめ」：before→after の要因や工夫したこと、今後についてを記載。
- * 「分類」：当てはまるカテゴリを選択。複数でも構わない。
- * 項目のより枠に収まらない場合、他の枠を調整して全体が 1 枚に収まるように調整するのは可
- * 写真・図などを多めに使用。
- * 結果論ではなく、目標を計画的に達成させた構成で記載。

資料② 事例入力例

No.	タイトル	くも膜下出血後の障害を持ちながらもボランティア活動までつながった事例		
事例	56歳男性、くも膜下出血、左片麻痺、高次脳機能障害、半盲 生活歴：造船所の塗装工、趣味は海釣り 本人の希望：自転車に乗り、買い物が行きたい	経過	発症後、妻に離婚される。急性期病院で看護師の目を盗んで車いすで屋上へ行くも麻痺で飛び降りれず。それ以来前向きになり、回復期病院を経て、独居の自宅に退院。訪問リハ週2回開始。	
開始時の状態と活動・参加		実現したい生活目標（予後予測）		アプローチ後の活動・参加
屋内歩行は独歩、屋外はT杖使用し、ADL自立。独居生活は何とかできるが、左片麻痺と高次脳機能障害により一部支援が必要。一人での外出は困難。日常的な社会交流なし。 		・自転車で購入物に行けるようになる ・友人とイカ釣りに行けるようになる		週2から段階的に訪問減らし、3年で卒業。IADL自立、自転車自立。自主グループでは会長に就任し、みんなの見本となるようカラダ作り・趣味・仕事・結婚・ボランティア活動に頑張っている。 
強み評価		リハアプローチ内容		
・前向き思考、負けず嫌い ・友達とイカ釣りいきたい ・自転車にまた乗りたい ・人との交流が好き		○訪問リハ（週2回） ・服薬管理、IADL訓練、外出・自転車訓練、生活助言、パソコン指導 ○脳卒中自主グループ ・ピアカウンセリング ・釣り等の体験 ・仕事体験 		
まとめ	退院当初は、片麻痺と高次脳の影響あり、IADLの組み立てに戸惑ったり、失敗することもあった。訪問リハで一つ一つ確認・相談しながら進めたことで、生活スキルや安全性が向上。同時進行で脳卒中グループの仲間と出会い、会長への就任で利他意識が芽生え、仲間との切磋琢磨と専門職のアドバイスで飛躍的に活動・参加が広がった。現在も進化中。 			分類 3

資料③ 強みの種類

強みの種類

対象者の強みは下記の表を参考に、ご本人・ご家族等より
問診・観察し、リハ目標やプロセスに活用してください。

人の性質・性格	技能・才能	関心・願望	環境
正直である 思いやりがある 親切である 辛抱強い 感性が豊か 話し好き 世話好き 几帳面である	金銭管理が正確 記憶力が高い 花をいけられる 裁縫が得意 人生経験が豊富 歌が好き 家庭で役割がある 絵がうまい	温泉が好き 魚釣りが好き 孫が好き 人の役に立ちたい 料理を教えたい 将来の夢がある 旅行に行きたい 仕事が楽しい	家族がいる ペットがいる 自宅が住みやすい 親友がいる 信頼できるケアマネ 経済的余裕がある 近くに商店街がある サロン仲間がいる

上手いかないけないことが多い人生だからこそ、対象者の強みを強調した
生活やリハビリを積極的に推進しましょう！

資料④ あなたの強みの種類

あなたの強みの種類

「強みの種類」の表を参考に、あなたの強みを整理してみましょう！

人の性質・性格	技能・才能	関心・願望	環境

上手いかなことが多く人生だからこそ、あなたの強みを強調した
生活やリハビリを積極的に推進しましょう！

★生活期リハ活動・参加促進レシピ★

活動・参加促進レシピ



左大腿義足のHさん、家庭菜園で介護予防中！

★まずは発想の転換を！★

活動・参加につなげるリハビリテーションとは、人としての復権につながる真のリハビリテーションです！

従来の身体機能中心のリハアプローチは、主として対象者の弱みを評価・分析して、強化・手当てするウィークネス（弱み）アプローチです。この方法の問題は、高齢者や障がい者が次第に抑うつになったり、依存的、消極的になることです。

一方、その人の強みに焦点をあて、その人の主体性や自律心を引き出しつつ、生活課題を解決するストレンクス（強み）アプローチという方法があります。

生活期リハにおいては、その人の強みを強調しながら、弱みをコントロールするアプローチ戦略の方が、より活動・参加につなぎやすく、心身機能もより高めることができます！

★その人の強みて何？★

性質・性格：思いやりがある、親切である、辛抱強い
感性が豊か、話し好き、世話好き等

技能・才能：花をいけられる、裁縫が得意、人生経験が豊富、歌が好き、家庭で役割がある等

関心・願望：孫が好き、人の役に立ちたい、料理を教えたい、将来の夢がある、旅行に行きたい等

環境：家族がいる、親友がいる、信頼できるケアマネ、経済的余裕がある、近くに商店街がある等

出典：チャールズ・A・ラップ「ストレンクスモデル」 一部改変

★効果的なリハアプローチの組み立て方★

- 1 初期評価の際に、従来の医学的な評価だけでなく、その人となり、特に強みの評価を行います！



- 1) 問診で強みを探る方法
・元気になったら何がしたいですか？
・病気をしなかったらどうしていますか？

- 2) 強みシートを使う方法
強みシート1と2（資料）を使い、対象者と一緒に整理する。



- 2 長期目標の設定は、強みをからめた本人の意欲の出る具体的な生活目標とします！

例)

- ・3か月後にお孫さん一家と日帰り紅葉狩り旅行に行く。
- ・6か月後に、好きな演歌歌手のコンサートに行く。



短期目標は、長期目標達成のための生活動作や心身機能の具体的な目標を！

- 3 定期訪問におけるリハプログラムは、本人の強みをからめたものとします！

例)

- ・花好きの人→園芸訓練
- ・買い物好きな人→外出・買い物訓練
- ・旅行好きの人→旅行に必要な動作訓練



※他動的な機能訓練はルーティン化しない
※身体機能調整は生活の中や自主トレで！

★活動・参加につなげるコツ・ポイント★

身体機能を調整すれば、自然と活動が活発化し、参加が広がるという、医学モデル的な方法論の限界を療法士が真摯に受け止めましょう！

療法士自身が機能訓練の呪縛から勇気をもって逃れたいと、対象者の活動・参加を的確に引き出せません。

あなたが変われば、対象者や地域も変わります！

従来の機能訓練中心のアプローチから脱却し、強みを強調したリハアプローチで、活動・参加につなげてください！



カテゴリ分類一覧

10項目

- 1 : 地域活動……………ボランティア・祭りなど地域との交流
- 2 : 外出……………買い物・食事・旅行など自分の満足に繋がるもの
- 3 : 再開・開始（再）獲得……………仕事・趣味・役割など
- 4 : 給付抑制……………非該当・介護度軽減・サービス終了など
- 5 : 幸福感の形成……………満足感・幸せなど本人家族の感情面
- 6 : 他職種連携……………連携を図り、対応した、達成したなど
- 7 : 介護負担軽減……………家族等の負担を減らすことが出来たなど
- 8 : 独居生活……………継続・獲得
- 9 : ターミナル……………看取り・生活継続中
- 10 : その他……………1～9に当てはまらない内容

本カテゴリは、結果に着目して選定しました。目標設定を行う際に入る要素をまとめたものです。我々は、目標を定めて、それを達成するためにアプローチを組み立てています。つまりこのカテゴリは、そのことを意識付けるための旗印であります。

初期あるいは中間評価を行ったところで、目標設定をする際に、カテゴリに当てはめ思考を行うことで課題抽出・プログラム設定とつながりやすくなります。

「アプローチを行った結果、〇〇が達成できた」ではなく、「〇〇を達成するために、このアプローチを行った」というように、狙った目標を獲得する対応を行うのが、これから我々が実践していく「活動・参加につながる訪問リハビリテーション」であると考えています。

訪問リハビリテーション振興財団 研修班
班長 露木 昭彰

訪問リハビリテーション従事者による活動・参加の事例集

事例集作成担当（五十音順）

内田 正剛 / 永来 努 / 逢坂 伸子 / 吉良 健司 / 鈴木 奈菜 / 武内 大輔
露木 昭彰 / 萩野 未沙 / 林元 光広 / ピリ 睦 / 堀 義範 / 藪上 知子

2018 年 5 月発行

発行者・著作：公益社団法人 日本理学療法士協会
一般社団法人 日本作業療法士協会
一般社団法人 日本言語聴覚士協会

編集：一般財団法人 訪問リハビリテーション振興財団
〒108-0023 東京都港区芝浦 3-5-39 田町イーストウイング 6F
TEL：03-6453-7370
FAX：03-5765-5177
